

# 多文化共生 課題考える

JICA九州 福岡市でシンポジウム

多文化共生に取り組む人たちが九州各県から集まって課題を考えるシンポジウムが30日、福岡市博多区のJR博多シティであり、熊本大特任助教のデブコタ・ハリさん(41)が「熊本市中央区」が「日本の地域社会には、外国人は長く日本に住まないという思い込みがある」と指摘した。JICA九州主催。

デブコタさんは、熊本大大学院への留学をきっかけに熊本に住み始めた。シンポジウムでは「外国人が(熊本県内の)地域や同じ外国人のコミュニティにつながる」ことができず、別の場

所に移ってしまうことがある」と現状を分析。「熊本に長く住んでもらえないのは、非常にもったいない」と訴えた。

シンポジウムでは佐賀県国際課で多文化社会コーディネーターを務めている北御門織絵さん(46)が「佐賀市が各自自治体が設ける地域日本語教室の事例を報告」

「参加者だった外国人が運営側に回り、地域づくりの主体になることもある。外国人と地域がつながること」で地域の力が何倍も大きくなることを実感している」と話した。

外国にルーツのある子ども

もや就労現場における現状や課題を共有するパネルトークもあった。(伊藤恩希)